

ナサニエル・ホーソーン研究
Working Check-List: 2003-2004

矢作三蔵 (学習院大学)
川村幸夫 (東京理科大学)

I. Books

- 岩瀬悉有 『蜘蛛の巣の意匠——アメリカ作家の創造性』 英宝社 (2003 年)
佐々木行宏 『ホーソーン論』 丸善出版サービスセンター<非売品> (2003 年)
西前孝(編) 『交差するメディア：アメリカ文学・映像・音楽』 大阪教育図書 (2003 年)
増永俊一 『アレゴリー解体——ナサニエル・ホーソーン作品試論』 英宝社 (2004 年)
Kawakubo, Keisuke 『Nathaniel Hawthorne: The Approach to Reality and Art』
開文社 (2003 年)

II. Bibliographies

III. Translations

- 土田訓康(編) 『ホーソーンとソファイア』 愛知文教大学出版部 (2003 年)
中村栄造(訳) 「ナサニエル・ホーソーン「ダストン一家」」 『名城大学人文紀要』 39(1)
(2003 年), pp.63-70.

IV. Articles

- 青井格 「自己パロディとしての"Rappaccini's Daughter"」 『近畿大学九州工学部
研究報告』 (31) (2003 年), pp.121-126.
—— 「ホーソーンと海——The American Notebooks に関する一考察」 『近畿大学
九州工学部研究報告』 (32) (2004 年), pp.123-127.
入子文子 「ホーソーンの短編とシェイクスピアの長編物語詩——「痣」覚え書き」
『關西大學文學論集』 52(4) (2003 年), pp.43-47.
—— 「ホーソーンと理想の読者」 『英文学論集』 43 関西英文学会(2003 年),
pp.49-62.
Enaka, Hachiro. "Changes in American Literary Attitudes toward the Clergy from
The Scarlet Letter to *Winesburg, Ohio*." 『文学部の多様な世界』 (加藤章監修)
教育史料出版会 (2003 年), pp. 864-
大野美砂 「Hawthorne's Struggle for a Masculine Identity in "The Custom-House"」
『千葉商科大学紀要』 40(3) (2002 年), pp.69-80.
—— 「異種混交の庭が表彰するもの——ラパチーニの庭とホーソーンの人種意識」

- 『千葉商大紀要』41(3) (2003 年), pp.143-153.
- 「Two Roles of the Letter A: Hawthorne's Ambivalence toward the Gender Stereotype in *The Scarlet Letter*」 『SOUNDING』29 (2003 年), pp.83-98.
- 大井映史 「"Young Goodman Brown"に見る意識と現実——The Conscience and Reality in "Young Goodman Brown": Phases Where You Wake Up」 『大手前大学人文科学部論集』4 大手前大学人文科学部(2003 年), pp.25-37.
- 大塚あゆみ 「The Scarlet Letter——「A」の文字が象徴するもの——」 『明星大学大学院英米文学』9+10 (2003 年), pp.61-74.
- 大場厚志 「ホーソーンの男性主人公と父権制社会」 『東海学園大学研究紀要 分冊2 人文学・健康科学研究編』8(2) (2003 年), pp.79-89.
- 小田敦子 「The Blithedale Romance とエマソンの "Experience"」 『Philologia』35 三重大学英語研究会 (2003 年), pp.169-179.
- Kainuma, Katsumi. "Dynamism of Representation in *The Scarlet Letter*." 『青山学院大学大学院文学研究科英米文学専攻論集』27 青山学院大学大学院文学研究科英米文学専攻院生会 (2003 年), pp. 141-155.
- 笠原慎一郎 「"The Minister's Black Veil" A PARABLE における普遍的な罪の象徴」 『明星大学大学院英米文学』9+10 (2003 年), pp.75-95.
- 川窪啓資 「Hawthorne's Deeper Sense of Reality in His Years」 『レビュー』9 麗澤大学 (2003 年), pp.116-38.
- 川下剛 「"Roger Malvin's Burial"における戦争の傷跡」 『九大英文学』46 (2003 年), pp.177-190.
- 川村幸夫 「毒と罠——ホーソン「ラパチーニの娘」について——」 『東京理科大学紀要(教養篇)』36 (2004 年), pp.31-39.
- 城戸光世 「歴史化される風景——ホーソーンの場所の感覚」 『新しい風景のアメリカ』(伊藤詔子, 吉田美津, 横田由里編著) 南雲堂 (2003 年)
- 古平ユキ 「ヒルダの変身——The Marble Faun 論」 『鶴見英語英米文学研究』4 (2003 年), pp.21-39.
- 柴田元幸 「探偵になったウェイクフィールド(2003 年文学の旅・古典と現代)」 『新潮』100(1) 新潮社 (2003 年), pp.286-295.
- 清水真紀, 清水武雄 「有標の同一指示表現: N.ホーソーンの短編 "Rappaccini's Daughter"における'Guasconti'及び'1→2', '1→3', '2→3'を中心に」 『群馬大学教育学部紀要. 人文・社会科学編』53 (2004 年), pp.223-238.
- 鈴木繁 「劇としての *The Scarlet Letter* (1)」 『佐賀大学文化教育学部研究論文集』(佐賀大学文化教育学部) 8(2) (2004 年) pp.105-124.
- 須藤祐二 "The Authorial Presence in Twice-Told Tales: The Objectification and the Experience of the Influence of Words" 『法政大学大学院紀要』(51) (2003 年), pp.13-42.
- 谷岡朗 「ナサニエル・ホーソーンのイタリア美術の受容と『大理石の牧神』」 『日本大学

- 理工学部一般教育教室彙報』73 (2003 年), pp.1-13.
- 土田訓康 「ナサニエル・ホーソン文学の告白」『愛知文教大学論叢』6 愛知文教大学 (2003 年), pp. 187-195.
- 中村敬子 「ホーソンのアンビヴァレンス——ピューリタニズムの精神を巡って」『英文学』85 早稲田大学英文学会 (2003 年), pp.18-31.
- 中村則子 「*The Scarlet Letter* における Chillingworth と Hester の関係」『英文学論考』29 立正大学英文学会(2003 年), pp. 54-67.
- 中村正広 「Southern Proslavery Thought and Hawthorne's Life of Franklin Pierce」『外国語研究』36 愛知教育大学英語研究室 (2003 年), pp.19-35.
- 中山麻衣子 「「脱走修道女」たちの証言——Hawthorne の *The Scarlet Letter* 及び *The Marble Faun* における女性の表象」『アメリカ文学研究』(40) 日本アメリカ文学会 (2003 年), pp.1-14.
- 長岡正憲 「「ラパチーニの娘」の moral と immoral について」『英語英文学研究』(7) 東京家政大学文学部英語英文学会 (2001 年), pp.41-54.
- 「ホーソンの "Wedding Knell" の「時」について」『英語英文学研究』(9) 東京家政大学文学部英語英文学会 (2003 年), pp.24-34.
- 仁木勝治 「尾崎紅葉にみるホーソンの影：罪の意識をめぐって」『立正大学文学部論叢』117 (2003 年), pp. 45-55.
- 丹羽隆昭 「『伝記物語』に見る作家の「真実」」『英文学評論』86 京都大学人間・環境学研究科英語部会 (2004 年), pp.113-131.
- 根本真紀 「ナサニエル・ホーソン研究——『緋文字』の偽善者たち」『川村英文学』(8) 川村学園女子大学川村英文学会 (2003 年), pp.35-53.
- 乗口眞一郎 「抑圧された Clifford Pyncheon への癒しに見る現代的手法—*The House of the Seven Gables*」『北九州市立大学国際論集』1 (2003 年), pp. 47-65.
- 野呂浩 「Wakefield 一考察——ウエイクフィールドの正体」『東京工芸大学工学部紀要』26(2) (2003 年), pp.36-43.
- 林幸利 「The Artist and His Art in The Artist of the Beautiful」『釧路工業高等専門学校紀要』(37) (2003 年), pp.67-72.
- 「Science and Religion in "The Birth-mark" and "Rappaccini's Daughter"」『釧路工業高等専門学校紀要』(37) (2003 年), pp.73-79.
- 原口遼 「ホーソンの幻の処女小説 Fanshawe のアメリカ性」『九大英文学』46 九州大学大学院英語学・英文学研究会 (2003 年), pp.149-158.
- 半田拓也 「"Young Goodman Brown" の精神分析的批評について」『福岡大学人文論叢』35(3) (2003 年) pp.1027-1062.
- 福岡和子 「「ロジャー・マルヴィンの埋葬」——一つの家族物語」『英文学評論』75 京都大学総合人間学部英語部会 (2003 年), pp.99-113.
- 「アリス・ピンチョンの悲劇とホーソンの人種意識」『英文学評論』86 京都大学人間・環境学研究科英語部会 (2004 年)

- 藤沢徹也 「『大理石の牧神』における未完成の中の完成」『交差するメディア：アメリカ文学・映像・音楽』（西前孝 編）大阪教育図書（2003 年），pp.79-104.
- 「『大理石の牧神』における「内包された作者」の介入——ミリアムの視線と「幸運な墮落」をめぐって」 *Persica* 30 岡山英文学会（2003 年），pp.71-87.
- 藤野早苗 「ホーソーンのみるピューリタン社会の光と陰——『緋文字』論考」『英米文化の光と陰』溪流社（2001 年），pp.13-31.
- 増永俊一 「屋敷は残った——『七破風の屋敷』における資本主義の精神とその行方」『共和国の振り子——アメリカ文学のダイナミズム——』（大井浩二 監修）英宝社（2003 年），pp.299-315.
- 松尾満 「「ラパチニの娘」小論——操り人形の悲劇」『大阪商業大学論集』128（2003 年），pp.67-79.
- 松阪仁伺 「ホーソーンの『ブライズデイル・ロマンス』と歴史」『兵庫教育大学研究紀要．第 2 分冊，言語系教育，社会系教育，芸術系教育』23（2003 年），pp.9-18.
- 「『緋文字』とヨハネ伝——姦通女のエピソードをめぐって」『言語表現研究』20 兵庫教育大学言語表現学会（2004 年），pp.97-106.
- 水野正孝 「予言の肖像画」『富山工業高等専門学校紀要』37（2003 年），pp.65-70.
- Mukai, Kumiko 「The Prophetic Pictures——Sympathy for the Painter」『九州アメリカ文学』（44）九州アメリカ文学会（2003 年），pp.9-21.
- 矢作三蔵 「オルゴールの音色——ホーソーンとソローの交流」『学習院大学文学部研究年報』（50）（2003 年），pp.141-169.

V. Reviews

- 渡辺利雄 「齋藤忠利（編）『緋文字の断層』」『英文学研究』80(2) 日本英文学会（2003 年），pp. 126-130.
- 飯野友幸 「岩瀬悉有著『蜘蛛の巣の意匠——アメリカ作家の創造性』」『英語青年』8 月号 研究社（2003 年），p. 310.
- Takemura, Kazuko 「The Life of an Author」『NHSJ Newsletter』22（2004 年），pp.9-11.

VI. Essays & Miscellanies

- 阿野文朗 「国際渉外室だより」『NHSJ Newsletter』22（2004 年），p.15.
- 入子文子 「関西支部例会(Kansai Salon)」『NHSJ Newsletter』22（2004 年），p.13.
- 倉橋洋子 「中部支部例会(Nagoya Salon)」『NHSJ Newsletter』22（2004 年），p.13.
- 齋藤幸子 「日本ナサニエル・ホーソーン協会会計報告」『NHSJ Newsletter』22（2004 年），p.19.
- 島田太郎 「会長挨拶」『NHSJ Newsletter』22（2004 年），p.1.
- 當麻一太郎 「事務局だより」『NHSJ Newsletter』22（2004 年），pp.16-17.
- 「東京支部例会(Tokyo Salon)」『NHSJ Newsletter』22（2004 年），pp.12-13.

- 萩原力 「齊藤忠利氏を偲んで」 『NHSJ Newsletter』 22 (2004 年), p.18.
- 村田希巳子 「九州支部研究会(Kyushu Chapter)」 『NHSJ Newsletter』 22 (2004 年), pp.13-14.
- 矢作三蔵 「資料室だより」 『NHSJ Newsletter』 22 (2004 年), p.14.
- 遊佐重樹 「仙台談話会(Sendai Symposium)」 『NHSJ Newsletter』 22 (2004 年), p.12.
- Aoi, Itaru 「"Rappaccini's Daughter" as a Self-parody」 『NHSJ Newsletter』 22 (2004 年), pp.3-4.
- Iriko, Fumiko 「Symposium: Hawthorne and Visual Arts」 『NHSJ Newsletter』 22 (2004 年), p.6.
- Ohsugi, Hiroaki 「After the Meeting with the Arts & Aesthetic Women」 『NHSJ Newsletter』 22 (2004 年), p.6.
- Ohno, Misa 「What Rappaccini's Hybrid Garden Signifies」 『NHSJ Newsletter』 22 (2004 年), p.4.
- Kido, Mitsuyo 「Hawthorne and Cole: Moralizing Picturesque Landscapes」 『NHSJ Newsletter』 22 (2004 年), p.7.
- Saito, Noboru 「Column: Washington Irving's Attitude to Escape from Reality」 『NHSJ Newsletter』 22 (2004 年), pp.8-9.
- Nakamura, Yoshio 「The Technology of the Eye--The Impact of Photography on Hawthorne and James」 『NHSJ Newsletter』 22 (2004 年), pp.7-8.
- Noriguchi, Shinichiro 「Workshop: Poison and Science--"Rappaccini's Daughter"--」 『NHSJ Newsletter』 22 (2004 年), pp.1-3.
- Hagiwara, Tsutomu 「N. Hawthorne's Reviews in the year of 1850 With Special Reference to The Scarlet Letter」 『NHSJ Newsletter』 22 (2004 年), p.1.
- Fujimura, Nozomi 「Father and Child in "the Eden of the Present World": "Rappaccini's Daughter" and Hawthorne in the Manse Period」 『NHSJ Newsletter』 22 (2004 年), pp.4-5.

追記

記載漏れの論文等もあろうかと心配しています。お気づきの点などございましたら、資料室担当者までご一報下さい。なお、論文等ご執筆の折には、資料室 にご一部お送りいただくか、タイトルなどをご連絡いただければ幸いです。藤沢徹也氏の協力に感謝します。(川村)